

保育者の資質向上を目指して

— 公開保育の実施から —

安達 勉* 奥村 幸子* 益田 薫子* 油谷 理恵*
吉井 紀子* 大勝 愛* 高橋 幸子* 吉藤絵梨子*
吉永 裕子* 坂本絵梨子* 入江沙耶佳* 横溝 文*

Key Words: 公開保育, チーム保育, 環境構成

はじめに

1 章 大学生への公開保育

1. 公開保育に向けて

- (1) 実施日・学生の参加人数
- (2) 配布資料
- (3) 学生のタイムスケジュール

2. 観察後の質疑応答

3. 「保育の実際」を伝える勉強会

- (1) 手遊び
- (2) 保育者の一日の仕事

4. 大学生への公開保育についてのアンケート調査結果

5. 1章の考察

2 章 東京都私立幼稚園連合会主催の本園公開保育

1. 公開保育に向けて

- (1) 他園実施の公開保育への職員参加
- (2) 本園公開保育の内容検討
- (3) 本園で作成した資料, アンケート

2. 公開保育当日の様子

- (1) 保育の様子
- (2) 研究協議会について

3. 保育参観後の質疑応答

4. 都私幼連公開保育についてのアンケート調査結果

5. 都私幼連の研究委員からの提案事項

6. 2章の考察

3 章 研究のまとめ

おわりに

* 文京学院大学文京幼稚園

はじめに

本園は、平成16年度に創立50周年を迎えた。50余年の歴史の中で、時代の流れと共に保育の形態や内容も少しずつ移り変わってきた。開園から約30年は、園児数が100人以下の「家庭的な園」であったが、昭和59年に、文京短大保育科の付属園として位置づけられたことから、定員数も現在の180名となり、入園希望者数も年々増加傾向が見られる。

本園では隔年で現場に即したテーマを選び、職員全体で研究活動に取り組んできた。その結果が保育のレベルアップにつながってきたと言えよう。平成9年度には文京短大が改組転換して文京女子大となり、本園も四年制大学の付属園として今日に至っている。

一方、近年では家庭や地域社会における子育て環境は、著しく変化しており、保護者が「幼稚園」に求める役割や要求も一昔前とは全く違うものになってきている。そこで、本園では全職員で紀要研究に取り組むだけでなく、本学人間学部教授にスーパーバイザー的役割を依頼し、アドバイスを受けながら、「本園の保育」を様々な角度から見直すことに取り組んできた。

その一環として、平成15年度には「幼児の戸外遊びの充実」を目指して「園庭に関する研究」に取り組んだ（文京学院大学研究紀要Vol.5に掲載）。このことは、園内の環境や幼児の遊び方を全職員で見つめ直すよいきっかけとなった。つまり「園庭」が限られたスペースであっても、保育者が意図を持って事前にセッティングしたり、幼児が遊びやすいように環境を変えていくことで、保育が活性化したり、幼児の遊びの可能性も広がることが実証されたのである。

また平成16年度からは、年少組（3歳児）の保育形態を一部変更して、「チーム保育」を意図的、積極的に取り入れてきた。年少組3クラスの各担任保育者は1年間固定とするが、サブの保育者3名をフリーとしたものである。幼児の発達段階と、各クラスの様子を見ながら、ローテーションを組んでサブ3名が3クラスに順番に入るように変更した。この保育形態をとってから3歳児の園庭遊びの様子に良い変化が見られている。以前より「自発性」や「持続力」が育ってきた。

このような試みや実践は、全て「保育の質の向上」を目的として行ってきたものである。少しずつは改善の方向にあるが、まだ充分とは言えない。そのため園内だけに留まらず、本園の保育を保育現場の関係者にありのまま公開し、意見や感想を求めてみようとの計画が持ち上がった。保育にはさまざまなスタイルや保育観があるのが当然だが、客観的に外から本園を多くの人に見てもらう機会が必要と考えたからである。

その機会として、平成17年11月に東京都私立幼稚園連合会主催の公開保育を本園で行うこととし、その準備から当日の様子、アンケートの実施と結果を今回の紀要研究にまとめた。

またその前後に、本学人間学部から依頼があり、平成17年5月と平成18年5月にそれぞれ保

育学科4年生全員を対象として公開保育を行った。これについては、1章で実際に参加した学生からの感想や意見を中心にまとめてみたい。

(益田 薫子)

1章 大学生への公開保育

平成17年度より文京学院大学人間学部からの依頼を受けて、公開保育を行うことになった。対象は数回の実習を経験し、最終の幼稚園実習そして就職活動を目前に控えた大学4年生全員である。保育者の指導案とその留意点を見ながら、一日の保育を観察することを大きな目的とし、学生には配属されたクラスで観察・記録をしてもらうこととした。

1. 公開保育に向けて

(1) 実施日・学生の参加人数

第1回：平成17年5月27日(金)・5月30日(月)・5月31日(火) 計129名

第2回：平成18年5月26日(金)・5月29日(月)・5月30日(火) 計124名

※学生は本園の年長組から年少組まで、3学年6クラスに上記人数を分けて配属した。新規採用保育者が担任のクラスは除外した。

(2) 配布資料

「公開保育のお知らせ」は5月中旬大学に送付し学生に配布した。

「各クラスの日案」〔資料1〕、園内概略図は当日配布した。

(3) 学生のタイムスケジュール

第1回：平成17年

- ① 8:40～9:00 園内清掃
- ② 9:05～9:25 園児の登園・身支度の様子を観察
- ③ 9:30～9:45 ガイダンス(園長・副園長の話)
- ④ 9:45～14:00 観察
(昼食は各クラスの担任の指示で30分間)
- ⑤ 14:00～14:30 保育室清掃・質疑応答(各クラスにて)
- ⑥ 14:30～15:00 勉強会
- ⑦ 15:00～ 感想文記入

第2回：平成18年

- ① 8:40～9:00 ガイダンス(園長・副園長の話)
- ② 9:00～14:00 園児の登園から降園までの様子を観察
(昼食は各クラスの担任の指示で30分間)
- ③ 14:00～14:20 保育室清掃(各クラスにて)
- ④ 14:20～14:45 質疑応答(各クラスにて)
- ⑤ 15:00～15:30 勉強会
- ⑥ 15:30～ アンケート記入

※平成17年度の実施を踏まえて平成18年度は改善を行った。

a. 平成17年度は、園児が登園する前の園内清掃等にも参加してもらった。しかし学生の人数が多いため、全員に作業を体験してもらうことができず、また雨天時には園庭掃除以外の作業の用意が困難であった。そこで平成18年度はガイダンスを園児の登園時間前に行うこと

(平成17年度)

年少組

- ・雨の日の3クラス合同活動について
- ・フリーの保育者について
- ・製作活動の目的・方法について
- ・泣いている子どもへの対応について
- ・降園の仕方について

年中組

- ・クラス全員を見る時の留意点について
- ・グループ活動の目的や意味について
- ・雨の日の環境構成について
- ・製作材料の使い方について
- ・個々のペースに合わせた対応について

年長組

- ・1年間を通してのテーマについて
- ・英語のレッスンについて
- ・係活動について
- ・製作物の活用方法について
- ・トラブル時の対処方法について

※質疑応答の様子

各クラスの保育を観察した上での疑問点や、園の方針、保育者の保育観、施設設備についてなど多岐にわたる質問・疑問が数多く寄せられた。平成17年度はクラスによって発言の少ない日もあったが、予め質疑応答の主旨を伝えてあった平成18年度は積極的な発言が目立ち、より有意義な時間になったと思われる。

(吉井 紀子)

(平成18年度)

年少組

- ・製作活動の導入・展開方法について
- ・弁当準備の流れ・方法について
- ・時期に応じた対応について
- ・自由遊び時の保育者の視点について
- ・保育者の声かけについて

年中組

- ・園庭で死角になる場所への配慮について
- ・壁面装飾について
- ・昼食準備の手順について
- ・はさみ等の管理について
- ・活動内容やねらいについて

年長組

- ・トラブルの解決方法について
- ・遊びのルールについて
- ・英語のレッスンについて
- ・体操のレッスンについて
- ・冒険旅行に向けての活動について

3. 「保育の実際」を伝える勉強会

質疑応答に続いて、「保育の実際を伝える勉強会」を行った。各学年から1～2名ずつ、保育者が代表で勉強会の講師を務めた。内容は以下の通りである。

(1) 手遊び

幼稚園で子どもたちが大好きな手遊びを学生たちに披露する。

保育者の資質向上を目指して（文京学院大学文京幼稚園）

- ・「棒が一本」
- ・「猛獣狩りに行こうよ」
- ・「Let's play number game」

(2) 保育者の一日の仕事

〈保育前〉

- ・園児が登園する1時間前に出勤し、保育室のセッティングをする。
- ・カーテンや窓を開けて空気の入替えや、保育室の温度を調節する。
- ・園児が身支度をスムーズに行えるようタオル掛けのフックや、出席した時シール帳に貼るシールの準備をする。
- ・身支度を整えたら、すぐに遊び始められるようブロックをござの上に置いたり、ままごとや粘土コーナーを作り環境設定をしておく。
- ・園庭では、砂場のネットを取り外して遊具を出し、ブランコを掛けておく。ドッジボールがしやすいようラインを引いてコートを作っておく。……など

その他にも、各学年ごとその日の活動に応じて必要な教材を準備しておく。

園庭の整備にあたっては、保育者が4～5名交代で落ち葉を掃いたり、危険がないよう環境を整えておく。

〈保育後〉

- ・保育終了後は、保育室の掃除を行う。
- ・翌日に使う教材の準備、製作の下準備、月ごとに変える壁面の貼り替えを行う。
- ・毎週水曜日には、園庭の点検や遊びやすいように砂場の砂を掘り起こしたり、畑の整備を行う日を設けている。その後は、会議を予定し、行事の打ち合わせや準備をする。
- ・学年ごとの期案を保育者で読み合わせ、自分の学年だけではなく、他学年がどんなことをやっているかを知ることにより、園全体で園児を見守っていけるようにしている。
……など

〈就職活動について〉

- ・自分にあった幼稚園を探すのはなかなか難しいが、気になる園があったら電話をして、保育を見せてもらい、よく観察をしてみる。保育する中で、自分が共感するところがあるかどうかを感じることが大切である。
- ・保育者同士の関係性はどうか。職員室の雰囲気はどうであったかも、働く上では必要。
- ・採用側の視点。……など

（吉藤 絵梨子）

4. 大学生への公開保育についてのアンケート調査結果

公開保育の参加大学生全員には、当日の保育終了後にアンケート調査を実施した。平成17年度は、対象学生129名、平成18年度は124名であった。平成17年度は、資料2-①「平成17年度大学生への公開保育アンケート」のように、自由記述を中心とした内容であったが、実施後により集計しやすい方法を検討し、平成18年度は、資料2-②「平成18年度大学生への公開保育アンケート」のように、アンケート用紙の項目を以下のように改善した。アンケート集計にあたり、自由記述の項目においては内容を分類し「カテゴリー」を作成することとした。その際、保育者の経験年数の差が分類内容に影響することを懸念したため、バランスを考慮した3名1組のチームを組み、作成にあたった。なお、集計結果は18年度のものであり、アンケート用紙の質問番号順（1～4）に回答した人数と％を以下に示す。

資料2-① 「平成17年度 大学生への公開保育アンケート」

平成17年5月 日	
文京学院大学文京幼稚園公開保育（一日観察）	
見学したクラス： _____	見学者：文京学院大学人間学部4年 名前 _____
1. 保育を一日観察した感想	
2. 質疑応答・勉強会で感じたことや学んだこと	
3. 印象に残った子どもの名前を書いてください	
名前	その幼児には、どんな配慮が必要であると思いますか？
()	
()	
()	
ご記入ありがとうございました。	

表1 「公開保育に参加して勉強になりましたか」の集計結果

(%)

	①保育参観(観察)	②質疑応答	③勉強会
a. 大変勉強になった	96人(77.4%)	103人(83.1%)	98人(79.0%)
b. 勉強になった	28人(22.6%)	21人(16.9%)	25人(20.2%)
c. あまり勉強にならなかった	0人(0%)	0人(0%)	1人(0.8%)
d. まったく勉強にならなかった	0人(0%)	0人(0%)	0人(0%)

(％は、124人中の割合)

表2 「1-① 保育参観(観察)」について

保育参観において勉強になったことの内容	人数(人)	割合(%)
子どもに対する保育者の対応や配慮がみられた	56	45.1
全体の様子を落ち着いて観察し、自分で考えることができた	29	23.4
子どもたちの様子を観察できた(遊びの様子・子ども同士のかかわり)	21	16.9
他園との違いをみつけることができた	16	12.9
保育者同士の声のかけ方・かかわり方がみられた	4	3.2
幼稚園の雰囲気がわかった	3	2.4
手遊びが学べた	3	2.4
子どもの活動に対応する環境構成が勉強になった	3	2.4
この時期の子どもの様子を初めてみる事ができた	2	1.6
参考にしたい保育だった	1	0.8

(％は、124人中の割合)

子どもに対する保育者の対応や配慮”が45.1%，2位“全体の様子を落ち着いて観察し、自分で考えることができた”が23.4%，3位“子どもたちの様子を観察できた”が16.9%であり上位をしめている。この結果から、学生は観察実習のねらいの1つである、日案に添って保育の流れを把握しながら、子どもたちの遊びの様子や子ども同士のかかわりを見ること、ねらいの2つめである保育者の子どもに対する配慮点や環境構成を見ることに対して、着実に観察実習のねらいを達成していることがわかる。保育者がどのような意図を持って子どもたちにかかわっているか、保育者の配慮点や動き方などをより深く見ていることがわかる。

尚、自分自身で考えながら、保育全体の流れを見ていくことは、教育実習ではできなかった体験であるとの意見も多くみられた。

表3の「1-② 質疑応答」についての質問に対して、“勉強になった”理由の割合は、1位“保育者の対応がよく、様々な質問ができた”が51.6%，2位“保育者の意図を知ることができた”が38.7%であった。多くの学生が、様々な角度からの質問をしたということは、学生自

保育者の資質向上を目指して（文京学院大学文京幼稚園）

身が日案を意識しながら注意深く読むことで、個々の子どもへの配慮点や環境構成の配慮点などを改めて考え直していく機会を持つことができた結果ではないだろうか。3位“他者の意見を聞くことで、視野が広がった”が30.6%であり、他の学生の質問内容にも耳を傾け、様々な観点から考えていく必要性を感じていることがわかる。

表3 「1—② 質疑応答」について

質疑応答において勉強になったことの種類内容	人数（人）	割合（%）
保育者の対応がよく、様々な質問ができた	64	51.6
保育者の意図を知ることができた	48	38.7
他者の意見を聞くことで、視野が広がった	38	30.6
質疑応答の時間がもっと欲しかった	8	6.5
園のことがわかった	5	4.0
保育者のかわいい笑顔に癒された	1	0.8
園オリジナルの歌を知り、自分でも作りたいと思った	1	0.8

（%は、124人中の割合）

表4「1—③ 勉強会」についての質問に対して、“勉強になった”理由の割合は、1位“就職についての経験談、アドバイスを聞いてよかった”が71.8%、2位“保育実技を知れてよかった”が61.3%、3位“保育現場の経験談が聞いてよかった”が19.4%であり上位をしめている。この結果から、大学4年生が直面している就職活動に対する前向きな気持ちを感じられる。保育歴1～3年の保育者の経験談は、学生にとってより新しい就職情報として聞くことができたのではないだろうか。尚、「採用者側からのアドバイス」にも真剣に聞きいる姿が見られた。

表4 「1—③ 勉強会」について

勉強会において勉強になったことの種類内容	人数（人）	割合（%）
就職についての経験談、アドバイスを聞いてよかった	89	71.8
保育実技を知れてよかった	76	61.3
保育現場の経験談が聞いてよかった	24	19.4
保育という仕事への熱意が高まった	4	3.2
文京幼稚園の保育者の親身な対応により楽しく学べた	3	2.4

（%は、124人中の割合）

表5「2. 文京幼稚園の印象はいかがでしたか？」の集計結果より、“大変よかった”と答えた学生の割合は、89.5%であり、“大変よかった”と答えた理由を、表6「質問2の理由」について、平成18年度と17年度のアンケートを比較しながらみていく。（平成17年度のアンケート

ト結果は、学生の感想文の中から「文京幼稚園の印象」のみを抜粋し、まとめたものである。）

表6「質問2の理由」についてより、平成18年度は、1位“保育者の表情、態度がよい”が39.5%、2位“子どもの表情、態度がよい”が32.3%であり、3位“子どもの自主性を重んじている”が26.6%であり上位をしめている。平成17年度は、1位“保育環境が充実している”が46.5%、2位“保育の流れに無理がない”が34.9%であり、3位“保育者間の連携がとれている”が33.3%であり上位をしめている。この結果から、平成17年度は、18年度と比較すると、学生は保育者や子どもの表情よりも保育環境や保育内容に高い関心の割合を示していることがわかる。この学生の関心の差は、天候による保育内容の違いが影響していると考えられる。平成17年度の公開保育は3日間のうち2日間が雨であったため、急遽日案を変更して雨の日の保育に切り替えて行った。その際に、保育者同士の話し合いや保育者同士の連携などチーム保育の姿が見られたと思われる。各学年共、雨のために外に出られないので、雨天日用の環境構成を行った。例えば、年少組の場合は3クラスあるが、各クラスに異なる種類の遊びを設定し、子どもが自主的に選択して3クラスを行き来しながら遊べるように環境構成に工夫を凝らした。子どもがいろいろなコーナーで楽しく遊ぶ姿に、学生は雨の日の保育にも“ゆとりがあること”を感じ、保育環境に関心が強く集まったと思われる。

また、18年度の公開保育は3日間とも天気に恵まれ、子どもたちは園庭で伸び伸びと遊ぶことができていた。保育者も子どもたちと一緒に園庭で元気に遊び、表情も明るく笑顔が自然に出てきていたのであろう。また、学生対象の公開保育も2回目であること、雨の日のように急遽の日案の変更もなく、日案の通りに保育を進められたことも保育者の表情にゆとりが見られたことの要因であったと考えられる。

平成17年・18年共に“子どもの自主性を重んじている”と答えた割合が高い。これは、雨の日の保育でも、外遊び中心の保育でも同様に感じていることがわかる。本園では日々、保育者が一方的にならないよう、子どもが主体となり、自分で遊びたいものを見つけ出せるような保育を行っている。その点が、学生にも保育を見る中で伝わったのであろう。

表5 「2. 文京幼稚園の印象はいかがでしたか？」の集計結果

(%)

a. 大変よかった	111人 (89.5%)
b. よかった	14人 (11.3%)
c. あまりよくなかった	0人 (0%)
d. よくなかった	0人 (0%)

(%は、124人中の割合)

表6 「質問2の理由」について

文京幼稚園に対して印象がよかったことの種類内容	18年度	17年度
	人数（人）	人数（人）
	割合（％）	割合（％）
保育者の表情，態度がよい (笑顔・明るい・元気・温かい・感じがよいなど)	49 39.5	30 23.3
子どもの表情，態度がよい (伸び伸びしている・子どもらしい・生き生きしている)	40 32.3	13 10.1
子どもの自主性を重んじている (自由遊びが多い・活動における制限が少ない)	33 26.6	29 22.5
保育者と子どもの関係がよい	24 19.4	
保育者間の連携がとれている	22 17.7	43 33.3
保育環境が充実している（園庭が広い・自然が多い・遊具が多い）	14 11.3	60 46.5
園全体の雰囲気がよい	11 8.9	
職員体制が充実している（フリーの保育者が多い）	3 2.4	12 9.3
保育の流れに無理がない	3 2.4	45 34.9
事前準備の打ち合わせがしっかりとれている		19 14.7
長期的な先を見越した保育		16 12.4

(18年度：％は，124人中の割合　17年度：％は，129人中の割合)

※この平成17年度アンケート結果は，学生の感想文の中から“文京幼稚園の印象”のみを抜粋し，まとめたものである。

表7 「3-① あなたの現在の就職希望は何ですか？」の集計結果

	人数 (人)	割合 (%)
幼稚園	69	55.6
保育園	56	45.2
その他	21	16.3

(%は、124人中の割合)

表8 「3-② この公開保育に参加してあなたの就職希望は変化しましたか？」の集計結果

(%)

	a. 幼稚園教諭 (%は69人中の割合)	b. 保育士 (%は56人中の割合)	c. その他 (%は21人中の割合)
a. 変化した	13人(18.8%)	15人(26.8%)	2人(9.5%)
b. 変化しなかった	41人(59.4%)	11人(19.6%)	4人(19.1%)
c. まだわからない	15人(21.8%)	30人(53.6%)	15人(71.1%)

表9 「4-① 本園の保育者を見てどう思いましたか？」について

本園の保育者の保育で“よい”と思われたカテゴリー	人数 (人)	割合 (%)
保育者の雰囲気が良い (笑顔・おだやか・明るい・元気)	56	45.2
子ども中心の保育 (のびのびしている)	42	33.9
保育者同士の連携がとれている	20	16.1
声かけや行動がスムーズ	13	10.5
理想の保育者像	4	3.2
環境構成が良い	4	3.2
子どもに負担をかけない保育	2	1.6
けじめがある	2	1.6

(%は、124人中の割合)

表10 「4-② 疑問に思われたところ」について

本園の保育者の保育で“疑問”に思われたカテゴリー	人数（人）	割合（％）
無回答（質疑応答で答えてもらったため、特になしなど）	89	71.8
保育者の保育方針・保育の流れについて （片付けのタイミング・手伝い方・叱りが少ない・職員同士の連絡の取り方・時間調整の仕方など）	21	16.9
園の施設について（壁のホチキス使用・木のゴール・2階建て）	8	6.5
園の方針について（保育者の服装・園服など）	6	4.8

（％は、124人中の割合）

（奥村 幸子）

（横溝 文）

5. 1章の考察

大学生を対象とした公開保育は2年間実施したが、平成17年度の改善点が反映された平成18年度は、学生にも職員にとってもスムーズに行うことができたと思われる。学生が勉強になった点は、各項目に理由が熱心に書かれていたことにも多く現れている。

平成17年度、18年度共アンケート結果に文京幼稚園の印象がよかった理由として、「保育者の表情・態度がよい」が多く挙げられている。その他にも「笑顔」という文字が多く目についた。その反面、平成18年度の質疑内容やアンケートの疑問欄の中に「保育者の叱り方について」の記述や質問が何名かに挙げられていた。年少組から年長組まで全ての学年の参加者から挙げられていたため、全職員でそのことについて検討する機会を設けることにした。

本園では、よほどの危険がない限り、大声を出して感情的に注意することは、ほとんどない。それは何故なのか。今回の指摘を受け各学年で理由について自由に話し合いを行い、その後以下の答えを出すことができた。

第一に、新規採用の保育者には保育上の留意点として「感情的に怒らない」「禁止句は最小限度にする」との内容を伝えている。このことはどの職員にも入職の際、新人研修（保育実習）に入る前に必ず時間をかけて話している。その言葉を頭の片隅に置き、先輩保育者が笑顔で子どもと接している場面を目にして「自分もこういう保育をしたい」と共感し、さらに意識づけされていくのである。

第二に、禁止句が少ないということについては、園児が園やクラスのルールに反することをした時に、頭ごなしに注意をするのではなく、その時の状況をよく考え、なるべく子どもの気持ちに寄り添って対応しているからである。

この方法をとることは時間はかかるが、子どもが本当に納得した時に行動や態度へと身についていくと考えられる。

このような2点を大切にしながら保育を行うことで、自然と保育者間に連携が生まれていくのではないだろうか。

2年間公開保育を行ったことにより、学生からの感想や疑問点をきっかけとして、普段では“当たり前”のこととして取り組んでいることを再度、全職員間でその意味を考えたり再認識できたことは貴重な機会を得たと思われる。

(吉藤 絵梨子)

2章 東京都私立幼稚園連合会主催の本園公開保育

1. 公開保育に向けて

東京都私立幼稚園連合会（以下 都私幼連と記す）主催の公開保育が毎年3園で実施されている。これは、現場の保育者が他園を見ることにより学ぶ機会を作ることとをねらいとしている。今回、保育の質の向上のためにも客観的に外から本園を多くの人に見てもらおうという本園の考えと、以前から都私幼連から公開保育実施の依頼があったことが重なり、本園での公開保育が平成17年11月17日に実施されることとなった。

(1) 他園実施の公開保育への職員参加

本園での公開保育実施決定を受けて準備を進めるにあたり、職員が分担して他園の公開保育に積極的に参加し、他園の様子を参考にすることにした。また同時に、全職員が研修という形で他園の保育を見ることで、自分の保育、本園全体の保育について改めて考える機会を設けることをねらいとした。その際保護者には、他園の公開保育参加の意図や、参加する保育者は実施日に公休となる（クラスの保育には入れない）こと、その日は他の保育者で補うことなどを、園だよりや保護者会を通して伝えた。また、園児に対しても「お勉強にいて、新しい遊びを教えてもらってくるからね。困ったことは〇〇先生に助けてもらえるからね。」などと事前に

資料3 「公開保育参加記録」

平成17年9月13日実施	西東京市	学校法人武蔵野東学園 武蔵野東幼稚園	職員1名参加
平成17年9月15日実施	新宿区	新宿区立 東戸山幼稚園	職員1名参加
平成17年10月24日実施	東久留米市	豊島なでしこ幼稚園	職員1名参加
平成17年10月28日実施	大田区	学校法人野村学園 パール幼稚園	職員1名参加
平成17年11月9日実施	練馬区	学校法人向南学園 向南幼稚園	職員2名参加
平成17年11月11日実施	文京区	東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎	職員1名参加
平成18年2月2, 17日実施	文京区	お茶の水女子大学附属幼稚園	職員4名参加

説明をして、担任不在でも安心できるように配慮した。

（高橋 幸子）

（2）本園公開保育の内容検討

今回、公開保育を行うにあたってa, b, cの3点を検討することとなった。aのテーマ選びは、都私幼連の公開保育を行うには参加者に見てもらいたいポイントを“テーマ”として掲げることになっているため本園でも公開保育の“テーマ”を考えた。bは当日の時程とその活動内容。cは保育後に行う協議会の内容である。これらの3点は本園ならではの特色を出し、最も他園の教諭に見てほしいことを重点におきたいと考えた。また、子どもたちにとっても本園の職員にとってもいつもと変わらない日常の内容にしたいと考えた。検討内容は以下の通りである。

a. テーマ選び

本園の目指している保育、常に心がけている保育は何かと改めて考えた。本園では年間を通してテーマを設け、子どもたち一人ひとりの思いを大切にし保育をするよう心がけている。その一人ひとりの気持ちが合わさったときそれがクラスという集団や学年という集団になるのだと考える。こうして公開保育のテーマは「心を動かす～小さなつぶやきを皆の体験に～」に決定した。

b. 当日の時程とその活動内容

保育活動は学年ごとに本園の特色や日頃行っている保育を見ていただけるような内容を考えた。年少組では英語活動にした。本園では創立以来年中・年長の2学年が英語活動を行っているが、ここ数年は年少組の秋頃から英語活動を取り入れ、英語講師と保育者が連携して行っている。よって、他園ではあまり見られない年少組からの英語活動をどう行っているかを見ていただくことにした。年中組では園外活動で集めてきた落ち葉やどんぐりを使った落ち葉プールや自然物製作を園庭で行うことにした。しかし、年中組の活動とはいえ他学年も自由に行える活動である。本園では製作も室内だけでなく園庭でコーナーを設け、他学年がいっしょに行えるようにしている。そういった前の保育活動を取り入れた活動や他学年の壁を越えた活動を見ていただくことと決めた。年長組では間近に控えている休日参観のミニ運動会で行うプログラム決めを話し合う活動に決めた。日頃から話し合いの場を設け自分たちの経験やアイデア、意見を出し合っている年長組での活動である。こうして各学年ごとに、当日の保育活動が決定した（詳細は資料4を参照）。

c. 協議会の内容

公開保育当日の保育に内容だけでは見られない活動、年間を通しての活動を発表することにした（詳細は資料6を参照）。各学年から1名の発表者が本園の保育活動の一部を発表することにした。年少組は、近年雨の日の室内遊びで抱えていた問題を解消するため、またクラスの友だちや保育者だけでなく学年でのかかわりが持てるようチーム保育を大切に保育形態を変え

てきた。そこで「チーム保育について」の経過や結果を発表することにした。年中組は本園3学年とも行っている「クッキングについて」の発表にした。本園では年間を通して各学年とも3～4回という数多くのクッキングを行っている。それには園庭に畑があり自分たちで育て収穫したものを食すことが多いのもっと身近な食材を使って調理し食べる楽しさを味わう、また日頃の保育とは少し異なった楽しさを味わえ、しかし日常とかけ離れすぎない活動を取り入れるということが理由に挙げられる。こうして年間を通して数多く行っている特殊な保育活動、クッキングについて発表することとなった。そして、年長組は年長組最大イベントである「冒険旅行について」の発表をすることにした。この冒険旅行は通常“お泊り保育”と呼ばれるものであり、本園では軽井沢まで1泊で行く活動である。その活動を迎えるにあたっての数ヶ月にわたる活動内容、子どもの意見や様子などを話すことにした。

こうしてa, b, cの3点の検討事項を決め、それぞれ活動内容や協議会の発表内容を準備していくことになった。

(大勝 愛)

保育者の資質向上を目指して（文京学院大学文京幼稚園）

(3) 本園で作成した資料、アンケート

公開保育に向けて全職員で当日配布する資料や参加者へのアンケート用紙を作成した。この作成にあたっては、他園の公開保育資料も参考とした。

資料の内容は、当日の保育内容や時間の流れがわかるように“予定と園内概略図”、“本日の日案（資料4参照）”を配布することとした。また、当日午後に行った研究協議会のためには、「チーム保育」「クッキング」「冒険旅行」の3つのテーマに合わせ、それぞれレジメを作成し

資料4 「本日の日案」（公開保育のタイムスケジュールと内容）

〈本日の日案〉

主活動を ○ で囲っています。

平成17年11月17日

	年少組	年中組	年長組
ねらい	・英語の歌や内容に興味をもち、楽しんで参加する ・自分の好きな遊びを見つけ、友だちとじっくり遊びを楽しむ	・友だちや保育者とかかわりながら、好きな遊びに参加する ・様々な素材に触れ、季節感を味わう	・集まりや遊びの中で、周りの状況に合わせて行動しようとする ・休日参観に向けて期待をもちながら話し合いに参加する
	9:10 登園 身支度 9:40 集まり 英語 ① 9:40～9:50 うさぎ組 ② 9:55～10:05 ここの組 ③ 10:50～11:00 りす組 好きな遊び 10:40 砂場片付け 10:50 入室 降園準備 11:15 降園	9:40 集まり 好きな遊び ・どんぐり、落ち葉製作 落ち葉プール ・サッカー、縄跳び ・砂場、外ままことなど 10:50 砂場片付け 11:00 入室 降園準備 11:25 降園	9:35 集まり 9:50 休日参観に向けての話し合い活動 好きな遊び 10:40 片付け みどり組係活動 〈係活動の内容〉 砂場・ブランコ・ボール 花壇の水やり・畑の水やり カメの世話 入室 降園準備 11:25 降園
本日の主活動について			
年少組	年少組での英語の時間は、9月から始まり、本日は3回目となる。各クラス10分間、文京学院大学短大 上野めぐみ講師と楽しい時間を過ごしている。上野講師は、年中組・年長組も担当しているため、年少組の子どもたちの中には、1学期の間に園内で見かけたり、会話する子どもたちもいたため、開始時から英語講師を自然に受け入れスムーズに英語の時間をスタートさせることができた。 本園では、英語の時間は講師と担任または学年付の二人が子どもたちの前に立って行われている。年少組も同様に講師講師と担任がチームを組み、子どもたちは、ごさ座って参加している。普段の保育での集まりと同じようにして、日頃の保育の流れにより近づけて、子どもたちが自然に英語の時間を受け入れやすいようにしている。 英語の内容は、挨拶に始まり、「How are you?」に対する答え方、歌や「Jump・Dance・Stop」など体を動かす活動等。教材は、日常の保育活動から連動させることも多い。因みに、今年は運動会で行った「まねっこピーナッツ」から「Peanuts Family」を取り上げて「Papa Peanut・・・」を導入することで子どもたちもとても楽しんで活動に参加している。		
年中組	過ごしやすい気候となり、年中組では数回園外保育を行った。まず10月中旬には本園の近くにある東京大学へどんぐり拾いに行った。大きいものや小さいもの、丸いものや細長いものなど様々な表情を持つどんぐりに子どもたちは強い興味をもった。 また、先週の木曜日(10日)には北区にある飛鳥山公園へ出掛けた。木々の葉が色づき始めた飛鳥山公園には、綺麗な色に染まった落ち葉が多くあり、子どもたちは袋がはち切れるほどの落ち葉を拾って園へ持ち帰ってきた。 本日はそのどんぐりや落ち葉を使っての活動を計画している。製作コーナーでは一人ひとりが思い思いの工夫しながらどんぐりクレーンや落ち葉のお面などを作り、落ち葉のプールでは泳いだり、落ち葉の雪を降らせるなど、普段ではできない遊びを他学年の子どもたちも交えながら楽しみたいと思う。		
年長組	本園では、「勤労感謝の日」前後に休日参観を実施している。1ヶ月に約1回、平日に行なわれている自由参観に来られない父兄の参観希望が多い。年長組は幼稚園生活最後の休日参観ということもあり、大学体育館を使ってのミニ運動会を例年行なっている。今年度も数日前より、子どもたちと話し合いを始め、当日の流れを考えている。 10月10日に実施した運動会で、年長組は「リレー」「パラバレー」「輪轆引き」「親子競技：テカバン競争」などに出席した。どの競技も楽しみながら練習に取り組み、本番は勝敗・出来映えに一喜一憂しながら完全燃焼することが出来た。運動会終了後も他学年と共に、園庭にて運動会ごっこを楽しんでいる。本日は、各グループごとにまとめた意見・構想をクラス全員の前でプレゼンテーションしていく。予想としては、運動会で年長組が行なった競技を親子でやりたいとの声が多く出るのはないかと思われる。自分たちの意見を友だちに分かりやすく伝えられるか？グループの友だちと助け合い、気持ちを一つにできるか？グループとしての意見発表は初めての取組みであるが、保育者も楽しみながら、皆で考えて意見をまとめていきたいと思う。		

た。その他、本日の保育活動や園の特徴に理解を深めてもらう目的で本園のカリキュラムである「期案」「年間計画」を年少組から年長組まで3学年分配布することとした（アンケートについては2章、4を参照していただきたい）。

（高橋 幸子）

2. 公開保育当日の様子

当日は、午前中園児の保育活動を参観し、その後質疑応答を行った。参観者は興味のある学年を選ぶ形にした。午後は幼稚園ホールにて研究協議会を行った。内容は(2)に示す。

資料5 「公開保育当日の流れ」

	9:25~	11:35~	12:00~	13:30~	14:15~	14:30~	15:30
受付	保育参観 〈主活動〉 年少：ことり 9:40~ うさぎ 9:55~ りす 10:50~ 年中：9:50~ 年長：9:50~	質疑応答 年少：ことり組 年中：ひつじ組 年長：あ お組 にて行います。 ※学年を選んでご 自由にご参加く ださい！	昼食・休憩	幼稚園ホールにて 研究協議会	休憩	平山先生の講演会 「保育の資質の 向上を目指して」 ～文京幼稚園の 取り組みを めぐって～	謝辞

(1) 保育の様子

各学年でスケジュールを立て、〔資料4〕のような計画の下行った（その様子は〔写真1～3〕参照）。また、保育後は各学年に分かれ、保育室にて質疑応答を行った。その詳細は次項



〔写真1〕 保育中の様子（年少組英語の活動）

保育者の資質向上を目指して（文京学院大学文京幼稚園）



〔写真 2〕 保育中の様子（季節の自然物を使った活動）



〔写真 3〕 保育中の様子
（年長組休日参観に向けての話し合い）

で述べる。

（2）研究協議会について

午後は幼稚園ホールにて 2 部構成で研究協議会を行った。

1 部では、本園の保育について幼稚園の特色を伝えるよう、各学年の代表者が発表する形をとった。2 部では、本学人間学部平山許江教授が、文京幼稚園の取り組みについて事例を挙げながら講演を行った。

資料6 「研究協議会の流れ」

研究協議会		協議会司会……本園副園長 奥村 幸子	
13:30～	1. 本園の保育について ・「幼稚園概要」 ・「チーム保育について」 ・「Cookingについて」 ・「年長冒険旅行について」	本園園長補佐 年少組 年中組 年長組	益田 薫子 高橋 幸子 大勝 愛 吉井 紀子
14:15～	休憩 (15分間)		
14:30～	2. 講演 演題「保育の資質向上を目指して～文京幼稚園の取り組みをめぐって～」 文京学院大学教授 平山 許江先生		
	3. お礼のことは	本園園長	安達 勉

後日、今回の公開保育の内容を文書でまとめ、東京都私立幼稚園教育研修会「幼児教育年報」(43号, 2006年発行)に発表した。

(坂本 絵梨子)

3. 保育参観後の質疑応答

質疑応答は保育終了後に各学年で行い、25分間の中で、活発に質問や意見が交わされた。質問に対しては、本園のそれぞれの学年を担当している保育者が答えた。

ここでは、挙げられた質問事項の一部を学年ごとに紹介する。

年少組

- ・子どもたちが、落ち着いて友だち同士で遊んでいる様子が見られたが、保育者が介入している様子はあまり見られなかった。意図があり、介入をしていないのか。
- ・担任が、降園時に何かを保護者に伝えていたようだが、どのようなことを伝えていたのか。また、他の学年はどのように降園するのか。
- ・園庭で、季節の素材を使った製作コーナーが見られた。製作を行う場所や期間などは、どのようなことに配慮し、どのように行われているのか。
- ・好きな遊びの時に、保育者が保育室にいないことがあった。担当場所のローテーションなどはないのか。
- ・英語はいつ頃から始まるのか。また、年長時での目標などはあるのか。

年中組

- ・園庭にある落ち葉のプールの落ち葉が大量にあったが、どこから落ち葉を集めたのか。
- ・落ち葉のプールは、保育者と子どものどちらの提案で行われたのか。

保育者の資質向上を目指して（文京学院大学文京幼稚園）

- ・園庭で作っていた、どんぐりケーキの今後の展開はあるのか。
- ・園庭での製作活動で、他学年の子どもも参加してみたいという時の対応はどのようにしているか。
- ・保育室にある宝箱は、どのような使用方法になっているのか。

年長組

- ・文字の教育は、いつ頃からどのように行っているのか。また、最終目標はあるのか。
- ・ダウン症の子どものケアについて、配慮している点はどのようなことか。また、運動会のリレーなど様々な活動は、どのように行われてきたのか。
- ・子どもたちが活動内容について話し合いを行っていた休日参観とは、どのような主旨の行事なのか。
- ・本日の話し合いは、今後どのように意見をまとめていくのか。
- ・クラスの話し合いで皆の意見に同意するのが難しい子どもや、保育者の声が届きにくい子どもに対しての接し方や、配慮はどのように行っているか。

年長組の質疑応答では、1つのテーマから他園ではどのように行っているかなどの情報交換が行われる場面もあった。また、大学教授から、文字を使った保育内容についてや子どもの個々へのかかわり方についてなどの提案をいただき、本園保育者と参加者双方に実りの多い時間となった。

（吉永 裕子）

自由記述の項目においては、経験年数の異なる保育者3名にて討議を行い、内容をカテゴリ分けすることとした。アンケート用紙の質問番号順（1～5）に回答した人数と％を以下のように示す。

表11-①「1. 本園の公開保育で一番ご覧になりたかったのはどのようなところですか？」の集計結果では、有効回答数は24名である。尚、この質問に対して、施設や環境・保育室の雰囲気・保育内容の中から1つのみ選択する形式になっている。この結果より、参加者の一番の関心は、1位“保育内容”の75.0%であり、次のような内容であった。（活動に対して保育者が子どもたちにどのようにかかわっているか）（子どもたちの一日の生活の様子・遊びの様子）（公開保育のテーマ「心を集め動かす」ということが具体的にどのように展開されているか）（一人ひとりが生かされる園生活）（日常のカリキュラムや行事について）

2位として、“施設や環境”が21.0%であり、〈都心にある園の自然環境〉〈子どもにとってよい環境〉〈園庭や室内の遊びの環境や壁面装飾〉に興味を示している。

表11-① 「1. 本園の公開保育で一番ご覧になりたかったのはどのようなところですか？」の集計結果

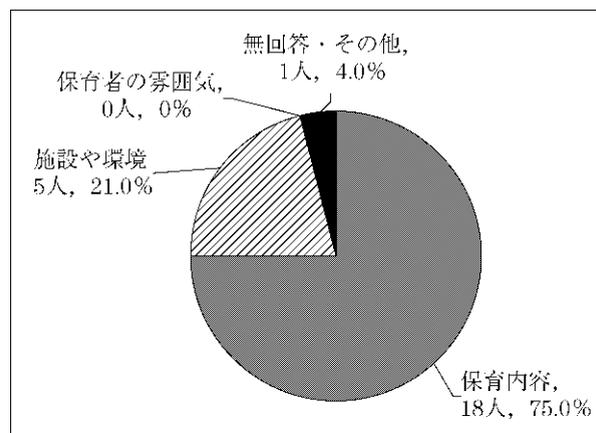


表11-②「年少組参加者の自由記述内容」について・表11-③「年中組参加者の自由記述内容」について・表11-④「年長組参加者の自由記述内容」については、「どの活動をご覧になりましたか？また、どのように感じましたか？」の質問に対しての自由記述・複数回答可のものである。公開保育の保育参観は自由形態で行なったため、各学年の活動を見た参加者の数は複数回答が多く、年少20名、年中21名、年長20名という結果になった。

表11-②「年少組参加者の自由記述内容」についてより、年少組の活動に参加して感じたこと、1位“雰囲気がよい”が65.0%、2位“子どもが活動に集中していた”が45.0%であり上位をしめている。“英語”と聞いて、語学の勉強といった堅い雰囲気を想像していたのではないだろうか。「子どもたちがとても楽しそうに、自然に参加している」という好感度の高い記

述が多い。平成11年度より3歳児の活動に英語を取り入れているが、英語教諭と保育者が話し合う機会を設け、英語の内容が日常の保育とかけ離れたものにならないように話し合っている。このことが、子どもたちにとっても、身近な英語として興味を示すことになり、自然に楽しい雰囲気になっているのではないだろうか。

表11—② 「年少組参加者の自由記述内容」について

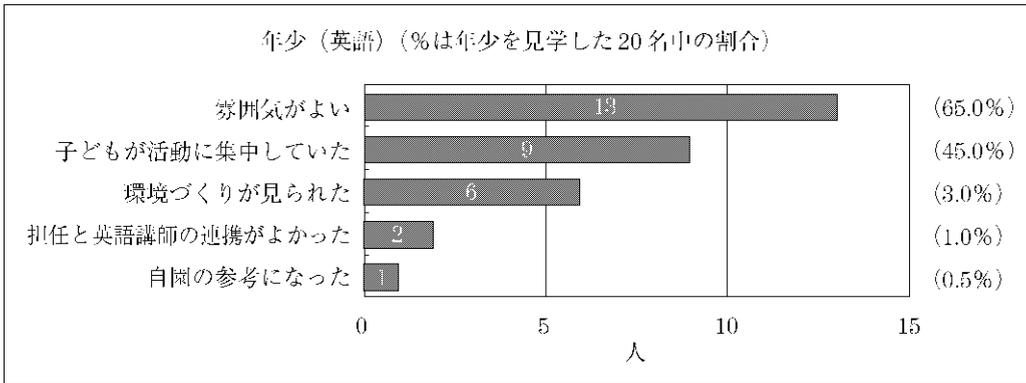


表11—③「年中組参加者の自由記述内容」についてより、年中組の活動に参加して感じたこと、1位「環境設定の仕方がよかった」が42.9%であり、園庭利用の方法に関心が高いことがわかる。園庭という限られたスペースの中で、今回のように自然物を使ったコーナー遊びを設ける時に、他の遊びも共存できるような環境構成を考えていくことが必要である。テントの下での製作コーナーは、3年前に職員研修で取り上げた「園庭にかかわる研究」から学んだものであり、日頃より保育に取り入れている。年中組は勿論のこと、園庭で遊ぶ他学年の子どもにも気軽に参加しやすい雰囲気になっていたようである。

2位“子どもの自主性が見られた”が33.3%であり、季節に合った自然物の題材が子どもたちに適していたのであろう。題材となった〈落ち葉のプール〉に使用した「落ち葉」や〈製作コーナー〉での「どんぐり」や「細い枝」は、子どもたちが園外保育の時に集めたものであり、自分たちが見つけた物で遊ぶことはいつもよりも興味を持って、自主的に遊ぶことにつながったのではないだろうか。そして、保育者が「その題材」を意図を持って事前にセッティングしたり、遊びやすいように構成したりすることで、遊びが活性化してきたと考えられる。

表11—④「年長組参加者の自由記述内容」についてより、年長組の活動に参加して感じたこと、“保育者の展開法が見られた”が35.0%で上位であり、〈話し合い〉という難しいテーマだけに、その活動の進め方に関心が集まったと言える。当日の話し合いの中で、泣き出してしまった子どもがおり、そのことを巡っての保育者と子どもたちのやりとりについて感想を述べている参観者が多かった。自分たちも通常の保育の中で経験する状況であった故であろう。また、“子どもの意見を尊重していた”も同じく35.0%で上位であった。子どもが泣き出してしま

表11-③ 「年中組参観者の自由記述内容」について

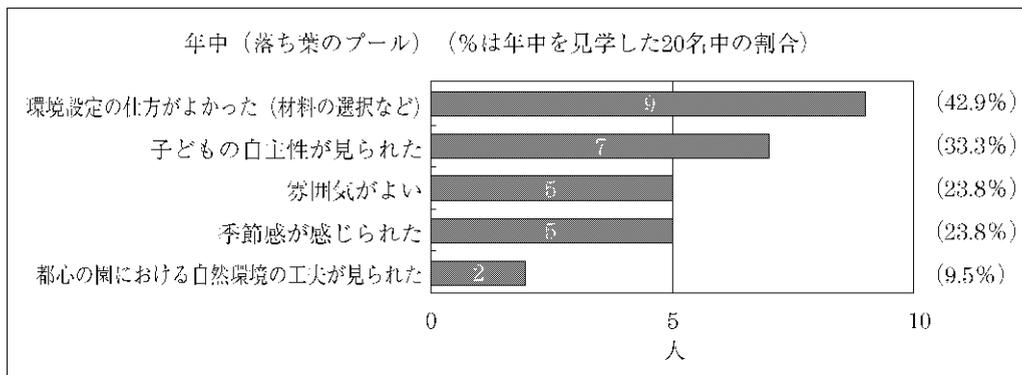
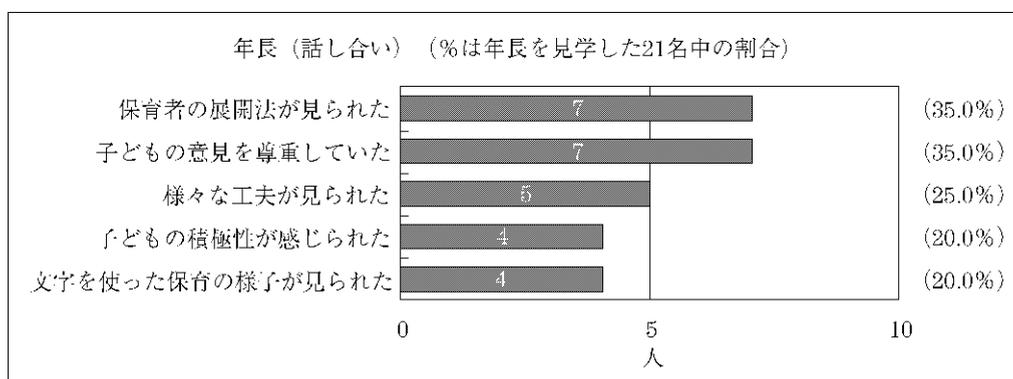


表11-④ 「年長組参加者の自由記述内容」について



ようなアクシデントがあった時に、保育者が泣いている子の意見と他の子の意見をどのように取り上げ、声かけをしていったかを見ることで、普段の保育の中で大事にしていることを感じとってもらえたであろう。その中に、日頃から保育者が自分だけの考えで、保育を推し進めるのではなく、子どものペースを大切に、一人ひとりの気持ちや意見を大事にし、子どもたちが自主的に考えて、皆で解決していこうとする姿を見てもらえたのではないかな。

表12-①「園庭の使い方」について・表12-②「保育室の使い方」については、「園庭や保育室の使い方についてはどのように感じましたか？」の質問に対する自由記述形式の回答である。

表12-①「園庭の使い方」について感じたことは、1位“思い思いに活動できる環境の工夫がされている”が48.1%であり、園庭中央の使い方が子どもたちにとって自主的に遊びを展開しやすい環境であると見ている。〈テントの下での自然物の製作コーナー〉〈落ち葉のプール〉〈サッカー〉〈リレー〉〈鬼ごっこ〉〈外ままごとコーナー〉〈木陰のアスレチック〉〈木陰の砂場コーナー〉など各種のコーナーが開放されていて、自由に参加できる雰囲気が見られたとの意見が多い。本園は都心にありながらも土の園庭を持つという恵まれた環境であるが、平成15年

度に行った「幼児の戸外遊びの充実」を目指して研究した成果が徐々に実ってきたと言えるのではないだろうか。

表12-②「保育室の使い方」について感じたことは、1位“環境構成が工夫がされている”が66.7%であり子どもたちが自主的に遊べる環境であると見ており、次のような意見が挙げられていた（遊具の配置など、各部屋できちんと考えられ、子どもたちが自分で出したり、片付けたりがしやすくなっている）（個人で作った作品をしまったり、製作途中の作品をしまっておく入れ物である〈宝物入れ箱〉が、個々人用になっていて、工夫されている）。

表12-① 「園庭の使い方」について

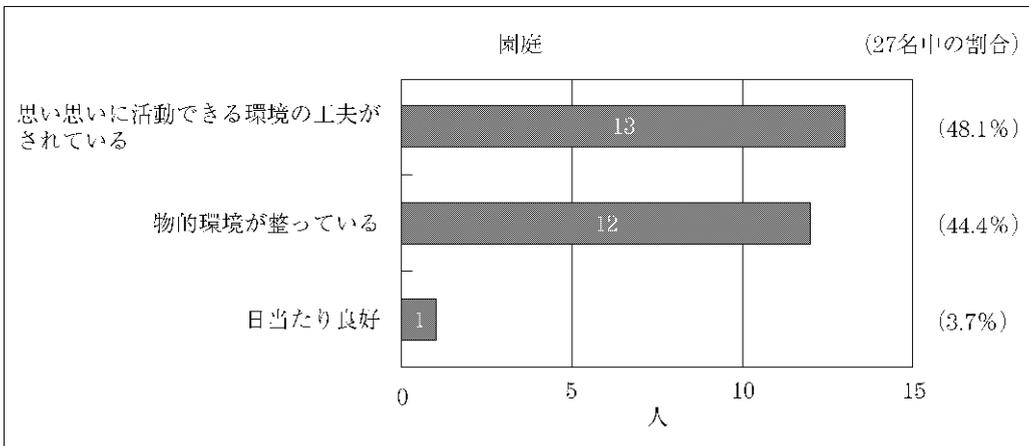


表12-② 「保育室の使い方」について

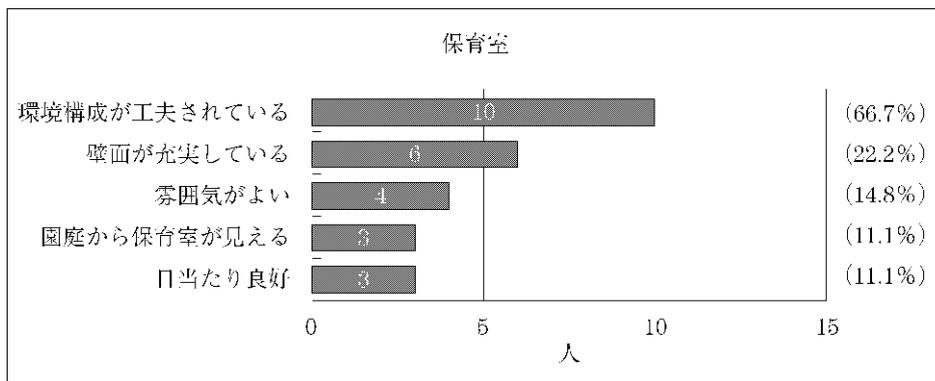


表13 「4. 貴園と大きく違うところがありましたか？」について
（自由記述，複数回答可）

相違点と具体例	人数(人)	%
・ 保育の流れ(集まりの仕方，自由活動・一斉活動の仕方)	7	25.9%
・ 施設の充実（園舎及び園庭の広さ，安全性の高い遊具）	5	18.5%
・ クラス，職員編成（クラス数，職員の配置，補助の有無）	4	14.8%
・ 保育用品の違い(カラー帽子，制服，マークの使用)	4	14.8%
・ 英語（英語指導の有無）	4	14.8%
・ 登降園の仕方（バス通園の有無，登園後の活動）	3	11.1%
・ 園庭の使い方（園庭での製作活動，コーナーの作り方）	2	7.4%
・ 文字（文字を書く，掲示物）	2	7.4%

アンケートの最後の質問「5. 保育終了後の質疑応答は，どの学年に参加されましたか？」の回答では，年少9名，年中6名，年長12名という結果となった。

（奥村 幸子）

（入江 沙耶佳）

5. 都私幼連の研究委員からの提案事項

公開保育の研究協議会終了後，都私幼連の研究委員6名と本園の職員で意見交換の場を持った。そこで，今回の公開保育に対する以下のような提案事項が挙げられた。

- ・ 協議会の内容及び資料が充実していた。また，内容が盛り沢山であったので，協議会内容を一つにしてもよかったのではないか。
- ・ 午後の協議会の使い方として，保育実践を協議したり，分科会にしてもよいのではないか。
- ・ 資料用の封筒の表紙に園舎地図や本日の流れなどが添付してあったため，見やすかった。
- ・ スーパーバイザーである大学教授とのよい関係が築けていることを感じた。また，協議会での保育者の表情がよかった。
- ・ 公開保育のテーマと保育内容の関係がわかりにくかった。
- ・ 協議会の発表でパワーポイントなどを使用するとよい。
- ・ 文字環境が多い。声を出すことのほうが大切なのでは。
- ・ 公開保育を行う意味を感じる。

これらの意見の中で，今後の課題となるものに対しては，職員一同で話し合いの機会を設けて，改善につなげることとした。

6. 2章の考察

今回、本園が取り組んだ公開保育は、初めての経験ではあったが、予想通り、そこから得たものは大きく、自分たちの保育に対して、極めて客観的に見てもらう機会となった。

公開保育に向けては、それまでに経験していた本学園の高校・大学生を対象にした公開保育の準備や当日の流れを土台として準備を進めた。また、職員全員が日程を分けて様々な幼稚園の公開保育に参加し、「当日の保育の流れ」や「資料」などを得られたことで、実際に本園で行うにはどのような形態や方法が最も望ましいかを改めて考えたり、自分たちの保育計画を見直すことができた。

終了後の質疑応答、アンケート調査、都私幼連研究委員からの提案事項では、本園の印象や保育の特徴については、プラス評価と取れるものが多かった。しかしながら、改めて再考する提案事項が以下のように挙げられた。参加者からの本園の疑問点や課題をまとめ、今後話し合いの課題となる主なものを以下に述べる。

- ・文字環境が多い点
- ・壁面の飾り方について……作品の掲示が少なく感じる
- ・2階で遊んでいる子を保育者がどのように見ていくか
- ・集まりなどで使用しているござの扱いについては必要か、人数に対して小さくないか、上履きのまま上がることはどうか

以上の中からすでに何点かについては話し合いを進めている。

ここでは、第3点目の「2階で遊んでいる子を保育者がどのように見ていくか？」という点についてその話し合った内容を述べる。事前に各学年別で話し合った内容をまとめ、その後全職員で意見交換をした。

年少組

- ・災害時のことを考えると年中長から1人でも保育室に残るのが安心なのでは？

年中組

- ・保育者同士のお互いの居場所の声かけの重要性
- ・室内見回り担当を決めておく

年長組

- ・室内遊びを1箇所にとめる
- ・今までの継続か保育者を1人配置するか悩んだ

全体

- ・一日中頻繁に保育室を見に行く保育者を決める
- ・室内に1人2人残っていたとしても、遊びこまず作業などをしながら様子を見る

などの意見が出された。この時点で、「室内担当を1人決めておく」という結論でまとまった。この課題で最も大切なことは、保育者の配置以前に、「子どもと保育者との信頼関係を築いていくこと」つまり、保育者として子どもたちの安全への責任はある。しかし、保育者が見ていなくても「この子は安全に活動できる」また「安心して活動に参加できる」という普段からの信頼関係が大事であるという点にこの課題のまとめを位置づけた。以上の話し合い同様、引き続き職員間の話し合いを続けていきたい。

（油谷 理恵）

3章 研究のまとめ

「保育の質の向上」とは何か―

今回、紀要研究の大きなテーマとして取り上げたが、改めてその本質を考えてみたい。

私立幼稚園は、それぞれ園独自の個性があり、「その園で受け継がれているもの」（保育に対する考え方や形態）を持っている。それが“園のカラー”として地域の中で定着している場合が多い。本園も同様に50年以上の歴史を重ねる中で、静かに継続しているものがある。時代が移り変わっても、大切に守るべきなのだろう。しかしながらこの「伝統」について、「うちの園ではずっとこのようにやってきたのだから」との理由だけで、その意味を考えずに同じことだけを続けていったとしたらどうなるのだろうか。現代の子どもたちを取り巻く環境は、刻々と変化している。それに対応した保育の柔軟性も必要となってくるはずである。

本園では公開保育の取り組み以前から、「文京幼稚園の保育」についてよいものを残しながらも、園全体を変えていこうとする努力を職員全員で続けてきた。幼稚園の現場経験豊かな大学教授からいただく的確なアドバイスは、「自分たちが当たり前としてきたこと」の持つ意味を再度考え直す貴重な機会となった。それは「子どもにとって本当に必要なものは何か」を考えて保育に取り組むようになったことにつながっている。

保育の中での人的環境は、保育者同士がお互いを認め合い、連携が自然にとれるようになったことで、園児同士の関係性にもよく影響していくことがわかった。物的環境である園庭や保育室の利用の仕方においても、「子どもに何を育てていきたいか」との考えを保育者が合わせ持つことで園児の動き方は変わり、いきいきと遊ぶ姿は確実に増えていった。

このように「保育の資質向上」を目指し、山登りに例えるなら7合目か8合目まで職員全員が登ってきたところで、「公開保育」という新たな試練に挑戦することになった訳である。学生への公開は、これまで本園では「教育実習」の受け入れを数多く行い、その他にも大学付属園である性質上、様々な見学者等の受け入れもしてきたため、ある程度の子測も立ち易かった。反面、都私幼連の公開保育を行うことは、言わば“現場のプロへ手の内を見せること”であり、“終了後にどのような感想が寄せられるのか”など行う前から不安を感じる要素が多か

ったことも事実である。

本園の保育者は勤勉であり、園児が楽しく園生活を送るための努力は惜しまず、しかも保育者自身も楽しみながら保育に取り組んでいる。また準備などにもチームワークのよさが表れ、仕事は手際よく進んでいく。このことは、確実に保育の中にプラス面として現れていると言えよう。しかしながら、全員がひたすらに前を向いて走ってきたこの数年間は、時には立ち止まり、振り返って考えてみたり、行き過ぎていないか確認することに欠けていたかもしれない。

「公開保育」の取り組みは、自分たちが普段の生活の中で見えていない側面に気づく機会となった。公開保育終了後の質疑応答やアンケートに寄せられた内容について「よく評価されたこと」は何故よかったのか、どのような配慮点からそう思われたのか、を考えてみることになった。これは、「本園が日頃から保育の中で大切にしているものは何か」を再確認することにつながった。また、「問題点や疑問点として挙げられたこと」は自分たちの普段見えていない点の指摘と受け止め、職員間で話し合いの機会を持つこととした。これは指摘を受けたこと全てを“改善していく”，との意味ではなく、そのことを今のまま続けていくにしても、「本当に最善な方法なのか」「やっていることの意味は」など改めて見つめ直す機会にもなるのである。

普段の保育の中では、活動の進め方や園児の様子について考えることが中心になる。それだけに留まらず、時々「側面」を職員全員で考えたり、納得し合ったりすることが今後も必要なことであろう。そうすることが保育の資質向上につながるのではないかと考える。

(益田 薫子)

おわりに

私は、毎朝門前で、登園してくる子どもたちと挨拶をかわす。ある年、10月になろうというのにふくれっ面で視線をそらし黙って通り過ぎる女の子がいた。以前からその子は、ほとんど挨拶ができない子で、付き添ってくる母親も大変気にして「園長先生にきちんとご挨拶なさい」ときつく叱責する。そのたびに私は、「強要はいけません。挨拶が嫌いになってしまいます。」などいっばしの保育者気取りで母親に説教をしたものである。私の挨拶は、にこやかで明るく爽やかであると評判がよい。しかし、その子はなぜ挨拶をしないのだろう。……結論を急ごう。その子は、私の態度に怒っていたのである。おぎなりの笑顔の奥にある冷たい目。挨拶のできない悪い子だと言わんばかりの押し付けがましい声。お母さんとの会話も気に入らない。

私は、そのことに気付いて、自らの態度を変える努力を始めた。親愛の情溢れる温かい笑顔で迎え、やさしく「おはよう」と予見のない素直な言葉をかけるようにした。2週間ほどたったある日、その子が笑顔で「おはようございます」と言ったのである。私は、その時のことを今でも忘れない。挨拶という言葉が出るとその時のことを思い出す。

私は、この事例からいくつかのことを学んだ。

保育者の資質向上を目指して（文京学院大学文京幼稚園）

- ・子どもを理解する。子どもの目線で考えることの大切さ。
- ・みんなと同じを保育者は求めてはならない。子どもの「みんなと同じ」になりたいという願いに寄り添い援助しなくてはならない。
- ・挨拶は「型」から入れ。繰り返していくうちに習慣となり身につくものだ、という一面の真理も、一人ひとりの子どもにすべて当てはまるわけではない。挨拶を交わすお互いの間に信頼と敬愛の心がなくては本物の挨拶とは言えない。子どもによっては、挨拶は「心」から入るべきである。
- ・気付く、改める（計画）、行う、続ける（実行）、振り返る（反省）ことの大切さ。

そして、私はこの経験によって自らの保育者としての資質は向上したと言える。（自己評価）冒頭私の小さな体験を長々と書いたのは、この研究のテーマが「保育者の資質向上を目指して」とあるからである。

文部科学省で作成されている幼児教育アクションプログラムでは、幼稚園教育の自己評価義務化が検討されている。いずれ私たち私立幼稚園も自己評価を行うようになると思われる。そのとき、この研究はおおいに役立つと思われるのである。

この研究の素材となった2つの公開保育であるが、それを計画し実行したことそれ自体が職員（研究主体者）の資質の向上につながったことは、確かである。しかし、その後他者の評価（学生、都私幼連の保育者）の分析も含め、振り返り、研究者一人一人が自己評価をしなくては主題（テーマ）に応えたことにはならない。

自己評価は、一人称（私は）で行われなくてはならない。謙遜やへりくだりは禁物。自らの資質の向上につながっていることを自ら確認することが大切である。

また、自らの自己評価を持ち寄って、相互に話し合い園全体の自己評価としてまとめ上げることも、大切なこととなる。

私は、研究をまとめるにあたり、全職員に「私たち幼稚園教諭は、保育の現場の最先端で、日々大切な子どもたちと接しております。私たちの研究は、抽象的であったり一般的であってはなりません。具体的な事例と具体的な対処と具体的な子どもとのかわりを表現しましょう。現場の保育者でなければできない研究のまとめをいたしましょう。」と話した。

研究者一人ひとり、この研究を通して保育者としてひとまわりもふたまわりも大きく成長したと思う。そして、間違いなく資質は向上した。そのことが、この研究の最大の成果であり、また、主題に対する答えである。

研究途上、アンケートの作成、集計の方法等具体的なお助言・ご指導をいただきました文京学院大学人間学部保育学科 金子智栄子教授、公開保育を実施するにあたり、様々な角度からご指導いただきました文京学院大学人間学部保育学科長 平山許江教授には、深く感謝いたしますとともに厚くお礼申し上げます。

（園長 安達 勉）
（2006.12.14受理）